

災害支援機能を有する練習船を用いた救援物資の運搬

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：老朽化が著しい国立高等専門学校が保有する練習船の代船を建造し、災害支援機能を拡充。令和6年能登半島地震においては、断水が続いていた七尾市へ練習船を活用して救援物資を運搬した。

対策名：78 大学・高専の練習船を活用した災害支援対策<5か年加速化対策>【文部科学省】

- 実施主体：富山高等専門学校等
- 実施場所：練習船を有する高等専門学校の所在地
- 事業費：約161億円（令和2～5年度）
（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）約161億円）

指標	R5 (実績)	R7 (目標値)
災害支援機能の強化のため緊急的に着手すべき高専練習船のうち、建造が完了した代船の数	2隻	4隻

■ 事業概要：

大学・高専が所有する練習船は、学生等の教育研究での活用の他、災害によって陸路での運搬が困難な被災地への救援物資の運搬や被災者への給水支援など災害支援機能の役割を担ってきた。練習船の老朽化が進んでいることから、代船を建造し、災害支援機能（支援物資搭載スペース・揚降設備の整備、清水の供給と緊急時の衛生設備の供給、通信手段の提供等）を充実させる。

■ 災害の外力、被害と効果：

令和6年能登半島地震においても、被災し断水が続いていた七尾市へ、富山高等専門学校の練習船「若潮丸」を活用し、救援物資（飲料水）を運搬した。

<令和6年能登半島地震における富山高専「若潮丸」による救援物資支援>



学生が積載作業に協力



七尾港へ向かう若潮丸



七尾市の避難所に届ける様子